

愛知淑徳大が知育アプリ活用の 幼児教室を開催

愛知淑徳大学はNTTドコモ東海支社と共同でタブレット端末と知育アプリを活用した幼児教室を2日、名古屋市守山区の「もりの風保育園」で実施した。

愛知淑徳大学心理学部の坂田陽子教授（発達心理学）とそのゼミ生が園児55人を対象にタブレット上に絵本を表示し、タブレットから流れる機械音声か、ゼミ生の読み聞かせによる肉声のどちらかでお話を聞かせる実験を行った。その結果、年齢が低いほど肉声で読み聞かせる方が、機械音声よりも話の記憶や内容の理解度が高まる事がわかった。坂田教授は「幼い子どもほどタブレットを大人と一緒に使用することで、より教育効果があがる」と話している。



タブレット端末で絵本を園児に読み聞かせるゼミ生

愛知淑徳大学とNTTドコモ東海支社は今後も産学連携を継続し、子供向けアプリの開発などを幼児教育の場に役立てていくという。